

勤務医負担軽減計画(2023年度目標)

勤務医の勤務状況

○病院規模：338床

○常勤医師勤務時間：週38.5時間

部署	項目	現状の取り組み	2022年度の目標		2023年度の目標		目標達成のために必要な事項
				達成状況		達成状況	
医事課	医師事務作業補助体制の充実	医師事務作業補助者の業務を管理・改善するための責任者を設置する	<ul style="list-style-type: none"> 初診時、AI問診にて問診をすることにより医師・看護師の負担を軽減する。 引きつづき人員の増員を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> AI問診での負担軽減は限定的であった。 人員の確保はできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> AI問診の契約期間が満了するため、AI問診に代わるツールの導入を検討する。 		<ul style="list-style-type: none"> 医師事務作業補助者の業務内容について全職員に周知し、医師事務作業補助に専念できる環境を整える 医師に対して医師事務作業補助者の活用に関する研修を行う
	診断書作成管理支援システムの運用の拡大	現状のオーダーリングシステムの文書管理システムを一部事務が補助している	<ul style="list-style-type: none"> 引きつづき医師の業務軽減に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務軽減に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引きつづき医師の業務軽減に努める。 		<ul style="list-style-type: none"> 医師事務作業補助者の選任及び必要に応じて新規採用を行う 医師事務作業補助者の配置(病棟、外来、医局)についての検証
地域連携室	地域の医療機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 他医療機関への診療依頼、情報提供依頼、(照会)、電話の取次ぎ、問い合わせの返答(添付データの準備) びわこメディカルネット利用のサポート 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き各種依頼や問い合わせについて、医師がスムーズに返答できるよう電子カルテやびわこあさがおネットを活用しながら調整し、医師の負担軽減に努める。 医師の要望に応じて他医療機関の情報をいち早く収集し発信する。 びわこあさがおネットの利用のサポートをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種依頼や問い合わせについて返答がスムーズにできるよう調整を行い医師の負担軽減に努めた。 医師の希望に応じていち早く情報提供ができるよう情報収集に努めることができた。 びわこあさがおネットの利用について操作等サポートを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き各種依頼や問い合わせについて、医師がスムーズに返答できるよう電子カルテやびわこあさがおネットを活用しながら調整し、医師の負担軽減に努める。 医師の要望に応じて他医療機関の情報をいち早く収集し発信する。 びわこあさがおネットの利用のサポートをする。 他医療機関への紹介についてスムーズに受け入れて頂けるよう地連より先方へ口答で情報提供を先に行い確認調整を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 他の医療機関の情報収集に努め、必要時にスムーズな連携がとれるよう密接で良好な関係を構築する。
			放射線科	遠隔読影システムの運用	画像検査のCT、MRIは高性能化に伴い1件の画像数が増え放射線科医師の読影負担も増大し読影効率にも影響が出ている。	遠隔読影システムの運用・調整で負担を軽減・分散し、放射線科医師の負担軽減を目指す。	定期読影が週7回のうち6回が遠隔読影で、読影総数件数9,187件のうち遠隔読影数6,872件と70.7%遠隔読影システムを利用し来院読影医師の負担軽減ができた。
	電子カルテでのオーダーの代行入力	電子カルテでのオーダーは医師が行っている。	電子カルテのオーダー代行依頼を受けた際に実施し、医師の負担軽減を目指す。	医師より口頭指示だけの際など指示を受けた技師が代行オーダーを行い医師の負担軽減が出来ました。	電子カルテのオーダー代行依頼を受けた際に実施し、医師の負担軽減を目指す。		操作手順を把握しオーダー内容(検査・データ入出力など)確認し、正確に代行オーダー発行をする。
管理課 総務課	院内保育所の充実	経営を外部委託し、職員が利用しやすい環境が整ったといえる。院内保育所を利用している医師は現在0名、子どもがいる医師は近所の施設を利用している	安心して出産・育児ができる環境を創出し、積極的にアピールし採用につなげるとともに、在職中の医師にも利用できることを周知する。	入職時や出産予定の医師に対して、院内保育所があることを積極的にアピールしている。	安心して出産・育児ができる環境を創出し、積極的にアピールし採用につなげるとともに、在職中の医師にも利用できることを周知する。		<ul style="list-style-type: none"> 制度の周知、アピール

部署	項目	現状の取り組み	2022年度の目標		2023年度の目標		目標達成のために必要な事項
				達成状況		達成状況	
管理課 総務課	子育てを行う労働者等の職業生活との両立を支援するための雇用環境の整備	就業規則等に制度を設けている 子育て中の女性医師の当直を免除、または宿直を免除している 育児休業利用実績 2名	ワーク・ライフ バランスに配慮した環境の整備と周知を行う 医師本人のワークライフに合わせた勤務ができるよう配慮する	本人の状況に合わせて必要な情報を個別にお知らせし、男性医師でも子育てに参加しやすい環境を整えている。	ワーク・ライフ バランスに配慮した環境の整備と周知を行う 医師本人のワークライフに合わせた勤務ができるよう配慮する		・採用時等に医師へのアピール、周知 ・ホームページへの掲載
	医師の増員	関連大学等に協力依頼を行っている ホームページの採用情報を常に最新の情報に更新している	関連大学等に積極的に協力依頼を行う。 ホームページに最新情報等を掲載し、院内の動きをいち早く発信し確保に繋げていく。	採用につなげるために、院内の情報を積極的に発信している。関連大学と密に連絡を取り、医師の確保に努めている。	関連大学等に積極的に協力依頼を行う。 ホームページに最新情報等を掲載し、院内の動きをいち早く発信し確保に繋げていく。		・医局との良好な関係と、医師就業環境の改善(働きやすい環境づくり)
	医師の提出書類の削減	手続き等の書類が大量にあり、わかりにくい書類は変更したり、わかりやすい説明をつける、直接対面での説明を行うなどの工夫をしている。電子化も進めている。	引き続き既存書類の見直しを行い、書類作成に係る時間を削減すると共に、ネットを活用し利便性の向上を図る	法改正による制度変更などは、該当者に対し、自分が該当者である事がひと目でわかるように、記名で書類を配布するなど、医師が情報を集めにいかななくても良いよう工夫している。	引き続き既存書類の見直しを行い、書類作成に係る時間を削減すると共に、電子化を進め、利便性の向上を図る		システムの導入
臨床工学科	オンコール体制による夜間緊急透析、急性血液浄化療法の対応	担当医師又は病棟よりオンコールにて臨床工学技士が対応している	・待機体制の確立 ・病室での治療のためCE1名で対応(常駐する)	・待機の体制は確立されていません。緊急時はオンコール対応。 ・CE病室で1名で対応。	・待機体制の確立。 ・病室での治療のためCE1名で対応(常駐)。		臨床工学技士の確保を目指す
	オンコール体制による夜間人工呼吸器装着	主治医又は病棟よりオンコールにて臨床工学技士が対応している	・待機体制の確立	・待機の体制は確立されていません。緊急時はオンコール対応。	・待機体制の確立。		臨床工学技士の確保を目指す
薬剤部	手術・検査目的の入院患者の中止薬の確認について	医事課、外来看護師と協力して入院前面談(外来受診時)を実施	手術延期がないよう、依頼があれば100%入院前面談に介入したい。連携強化してトラブルも0件にしたい。	依頼がある面談については漏れなく行っている。連絡トラブルによりできなかった面談が数件あった。中止薬の止められなかった件数は0件	手術延期がないよう、依頼があれば100%入院前面談に介入したい。連携強化してトラブルも0件にしたい。		・薬剤師の増員 ・医事課、外来看護師の協力
	中止、変更の代行入力について	中止、変更ともやっているが不十分である	引き続き100%を目指して取り組みたい。	70%程度は行っている。	引き続き100%を目指して取り組みたい。		・薬剤師の増員 ・医師との連携
	持参薬	持参薬の確認はしているが患者が持参しなくて内容がわからず報告が遅れることがある。	引き続き予定入院患者100%を目指したい。予定外についても早めに確認できるように取り組みたい。	時間外においてもできる限り対応している。持参薬が切れる日などを把握して代替薬提案なども概ね行うことができている。	引き続き予定入院患者100%を目指したい。予定外についても早めに確認できるように取り組みたい。		・薬剤師の増員 ・医事課、外来看護師の協力
	薬剤管理	薬剤が切れる時期については薬剤師、看護師が確認している。	引き続き処方もれがないように努めたい。	一部、処方漏れがあったが概ね事前に処方できている。	引き続き処方もれがないように努めたい。		・薬剤師の増員 ・病棟看護師の協力
	外来患者手技指導	インスリン指導を実施している。	外来での薬剤の指導も充実するよう努めたい。	外来での指導は多くはないが依頼がある分は100%対応できた。院外処方分の指導は自己注射のみ行うことができた。	外来での薬剤の指導も充実するよう努めたい。 自己注射以外の指導もできるように努めたい。		・薬剤師の増員 ・看護師の協力 ・指導場所の確保
臨床検査科	生理検査診療補助	超音波装置により心臓、腹部、頸部、下肢等の一部検査の実施と評価を行っている	・引き続き依頼に対して100%対応実施。タイムリーにレポートを提出。	医師からの依頼に100%対応実施。	引き続き依頼に対して100%対応実施。タイムリーにレポートを提出。 全部位の検査対応可に取り組む。		・精度の高いデータを提供するために外部精度管理研修会等へ参加する ・技師増員

部署	項目	現状の取り組み	2022年度の目標		2023年度の目標		目標達成のために必要な事項
				達成状況		達成状況	
診療情報管理室	電子カルテの運用	電子カルテの充実を図る。	・電子カルテを院外でも使用できる仕組みの導入を検討する。安全面などが問題となるが使用出来れば施設診療を行う際に医師の負担軽減になり得る。	電子カルテを院外でも使できる仕組みを導入しました。施設診療に使用してもらう事により帰院してから電子カルテへの入力作業が不要となったため負担軽減に繋がったと思います。	電子カルテの施設診療での使用の拡充と電子カルテのレベルアップを行い更なる充実を図る。		電子カルテシステムを最大限有効活用できるように意見を聞き改善を実施する。
リハビリテーション科	診断書関係の計測	診断書の筋力、ROM、ADLの計測	・引きつづき診断書関係の計測を実施。	・依頼があったものは100%達成。	・引きつづき診断書関係の計測を実施。		
看護部	初診時の予診の実施	看護職員にて実施している。	・引き続き実施する。	呼吸器科医師を中心に実施。他科医師より要望がないため必要時	引き続き実施する。		
看護部 事務部等	入院の説明の実施	看護職員、事務員等にて実施している。	・引きつづき実施する。	実施出来た。時間の有効活用のため動画作成を検討。	入院案内、オリエンテーション(3-6病棟)動画作成予定。		
薬剤部	服薬指導	薬剤師にて実施している。	自己注射以外の指導もできるように努めたい。				・薬剤師の増員
看護部 臨床検査科	静脈採血等の実施 静脈注射	看護職員にて実施している。 臨床検査科にて実施している。	・引き続き実施する。	実施出来た。各科外来連携し同日採血はまとめて行い患者負担も軽減している。	引き続き実施する。		
看護部	検査手順の説明の実施	看護職員にて実施している。	・引き続き実施する。	実施出来た。	検査前処置の説明について動画作成予定。		
医療福祉相談室	退院調整	主治医からの退院許可があれば、速やかに対応している。	・退院に関わるスムーズな調整(転院、訪問看護、往診など)を行ない医師の負担軽減を図る。	・退院許可が出る前から調整に入り、許可が出次第スムーズに退院へつなげるよう努めた。	・退院に関わるスムーズな調整(転院、訪問看護、往診など)を行ない医師の負担軽減を図る。		
	患者、家族への説明、理解促進	医療用語をわかりやすく伝えることで、医師からの説明に対する理解の促進を担っている。	・必要時に医師のICに同席し、医師の説明時間の短縮につながるよう努める。 ・本人、家族に制度説明を行い書類を医師に提示し、医師のペースで作成できるように補助する。	・書類の作成を依頼するときには理由や目的を明確にしてから依頼することで、医師に負担をかけないようにした。	・必要時に医師のICに同席し、医師の説明時間の短縮につながるよう努める。 ・本人、家族に制度説明を行い書類を医師に提示し、医師のペースで作成できるように補助する。		
	予約調整	診療や書類作成のために必要な情報を先に収集している。	・認知症専門外来への予約調整および基本情報の収集を行ない、診療時間の短縮につながるよう補助する。 ・精神科外来新規予約患者の調整および基本情報の収集を行ない、診療時間の短縮につながるよう補助する。	・収集した情報を電子カルテに記載し、医師が診療前に確認できるようにした。	・認知症専門外来への予約調整および基本情報の収集を行ない、診療時間の短縮につながるよう補助する。 ・精神科外来新規予約患者の調整および基本情報の収集を行ない、診療時間の短縮につながるよう補助する。		
栄養科	治療食の提案	入院時や入院中の状態を評価し、一般食から治療食への提案を実施している。	・とよサボ以外の患者さんに対しても、よりタイムリーに提案ができるように引きつづき実施する。	他部署と連携をとりながら実施。	多職種との連携、情報収集をおこない早期から食事の提案をする。		人材育成
	経管栄養剤の提案	経腸栄養療法について、医師から相談があった場合に種類や量について提案している。	・NSTと連携し、患者さんに適切な栄養剤を引き続き提案する。	スタッフ間で共有して提案を行った。	NSTと連携し患者さんに適切な栄養剤を引き続き提案する。		人材育成
	NST介入	NST回診で、栄養量評価を行い再評価しながら患者さんの栄養改善に努めている。	・事前準備をおこない、引きつづき食事の摂取量や状態を把握して回診に参加。	実施。	回診時には事前準備をおこない摂取量や状態を把握して、食事の提案を行う。		介入依頼、スキルUP